

文久四年  
元治元年

(二月)

(二月一日) 元日 癸卯

終日遊ぶ。朝、隣家にて一服呼れる。此日、腹下りにて、くるしむ。

(二月) 二日 甲辰

此日、昼後迄臥。八ツ時より起て遊ぶ。夜、早寐する。

(二月) 三日 乙巳

朝より礼廻りして、昼後より松屋町辺え松はやし買物に行、夫より木津え帰る。夕方より御坊え遊びに行、三更迄哥かるたする。一宿。

\*松はやし(松囃子) \*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 四日 丙午

朝、木津より帰り、掃事する。

\*掃事(掃除)

(二月) 五日 丁未

此日、松はやしいたし候。子達不残御出にて、終日にきくしく候。七ツ時に仕舞。

\*松はやし(松囃子) \*にきくしく(賑々しく)

(二月) 六日 戊申

此日、京行のこしらへする。七ツ時より蘆ノ太七連て大小船にて上京する。夕暮に舟泛る。

\*こしらへ(拵へ)

(二月) 七日 己酉

朝四ツ時、伏見え着船。姉小路さまえ九ツ時着。八ツ時、太七帰らし候。此夜、四ツ時ニ臥。此日、寿部院さま、中院さまえならせられ候。

(二月) 八日 庚戌

此日、終日コテく〜とくらし候。夜三更頃迄遊ぶ。

(二月) 九日 辛亥

此日、父さま大坂え帰られ候。此夜、釜懸り、皆々茶ノ稽古する。

(二月) 十日 壬子

此日、お子さま方え書物、手習をしへる。夜三更頃迄茶点。

\*をしへる(教へる)

(二月) 十一日 癸丑

此日、書物、手習をしへる。夜三更迄茶稽古する。

\*をしへる(教へる)

(二月) 十二日 甲寅

此日、同じく文書をしへる。此日、風早様ならせられ候て、茶懸二幅御頼遊し候。此時、金万来。千重丸様、半切一行物御認遊し、又半切つち御認遊し、金万驚、大感心致され候。此夜、哥かるたする。

\*をしへる(教へる) \*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 十三日 乙卯

此日、同稽古して、此夜も四更二臥。

(二月) 十四日 丙辰

此日、同断。

(二月) 十五日 丁巳

此日朝、御祝済て、おさつさま、私、典膳、伊織さま、同道にて中院様え寿部院さま御迎に参る。暫して御供して帰り、蓮観院様え行、遊ぶ。此夜、蓮観院様にて哥かるた(た)する。

\*哥かるふ(哥カルタ)

(二月) 十六日 戊午

此日、寿部院様の御馳走にて、お山にて梅見いたし候。此日、私事、蓮観院さまよりの御頼にて、和宮様えの御文認ル。此夜、哥かるたする。懸物、蓮観院さま、寿部院さまより懸られ候。夜五更迄遊ぶ。茶点する。

\*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 十七日 己未

此日、御子さま方え手習、書物、稽古する。又茶の稽古する。此夕、父さま大坂より帰られ候。

(二月) 十八日 庚申

此日、同じく稽古済て、昼後、茶之湯こしらへする。此日、七ツ時前より初まる。濃茶手前、私いたし候。主人、千世滝さま。客、千重丸様、良姫さま、私、父さま、典膳さま、近藤さま、六客也。会席済て薄茶、よし姫さま遊はし候。夫より二更頃迄風流遊、曆当、名人の珍談いたし、真におもしろき事也。夫より皆々哥かるた、光源氏する。四更二臥。  
\*こしらへ(拵へ) \*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 十九日 辛酉

此日昼時より、千重丸様、良姫さま、三宅八幡様え詣あらせられ、私、さつ、近藤さま、典膳さま、下男、御供いたし、山花え寄。此処、真に艷景也。真図写し候。暫とろゝ汁にて遊ぶ。夫より帰り、下加茂にて日暮、半時に御帰殿あらせられ候。

\*半時(飯時)

(二月) 廿日 壬戌

此日、殿様御日からにて、夜、点茶、あるいハ哥かるた、其外いろゝ遊ひ事、夜通しする。此早朝、父さま、近藤さま御用にて大津え行れ候。此日、地袋花十二認ル。

\*日から(日柄) \*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 廿一日 癸亥

此日、父さま帰られ候。此日、画認ル。夜、点茶する。

(二月) 廿二日 甲子

此日朝より父さまと同道にて宮原え行候処、先生下坂にて留主中。夫より寺町え寄、又六条前田え行、暫居候へとも主人留主中ゆへ、夫より帰り、此時、大雨にて、又寺町え寄。此時、日暮。此夜、寺町にて一宿する。道場え軍談聞に行。

(二月) 廿三日 乙丑

早朝、御殿え帰り候処、面に出物出来。此日、近藤さまに見てもらい、ひる懸ル。此夜、廿三夜待にて、最初薄茶、夫より私え離別哥皆々読れ、夫より御酒にて、夜明る迄。

\*ひる(蛭)

(二月) 廿四日 丙寅

早朝より御暇申て帰り、又此時、寺町え一寸寄、夫より伏見え昼前に着、暫船宿にて遊ぶ。

昼後より船泛。此船、乗合なし。父さまと私、二人ン計也。此日、大風又雪。五ツ時前に着。

(二月) 廿五日 丁卯

此日、父様と同道にて木津え帰る。コテ／＼して、八ツ後時に帰り、此時、辻さまえ寄、辻さまにて夕飯呼れる。

(二月) 廿六日 戊辰

父さま、此朝、中城え向て帰られ候。此夜より、上田おふきさま、おかめさま、画をならいに来られ候。此日、井上氏え行候処、山田吉之助子来、日暮迄席画する。

(此日、姉印さまえ御文庫出す。)

(二月) 廿七日 己巳

此朝より後藤え行、稽古して帰り、風早様の茶懸、又二幅対認ル。此夜、上田二人来られて茶稽古する。一更二帰られ候。三更二臥。

(二月) 廿九日 辛未

此朝、後藤行。此日、**火はち**認ル。此夕、二更二臥。

\*火はち(火鉢)

(二月)

二月朔日 壬申

此日、昼後、難波僧来、四季山水連落、扇子二本頼れ候。此日、井上あか女入門致され候。八ツ後より、私、木津え帰り一宿する。

(二月) 二日 癸酉

朝、木津より帰り候。此日、草稿認ル。夕、上田兩人来られ候て、釜懸、薄茶稽古する。此日、隣家兩人播州より帰られ候。隣家兩人、薄茶呼。夜二更二臥。

(二月) 三日 甲戌

此朝、後藤え行、稽古して帰り、此日、四季山水ニかゝる。夜二更二臥。

(二月) 四日 乙亥

此朝、後藤え行、稽古して帰り、四季山水認ル。夜二更二臥。

(二月) 五日 丙子

此朝、後藤え行、稽古して帰り、四季山水認上ル。画帖認ル。夜五更迄読書。

(二月) 六日 丁丑

此日、後藤行、稽古して帰り、絹地三枚張。夜二更二臥。

(二月) 七日 戊寅

此日、後藤行、稽古して帰り、絹地額面にかゝる。夕、釜懸、隣家お雪さま来られ候。夜二更二臥。此日、細矢え行、四方棚にて稽古する。

(二月) 八日 己卯

此日、上田さまより誘れ、稲荷芝居え行、**半時頃**に帰る。一更二臥。  
\*半時頃(飯時頃)

(二月) 九日 庚辰

此朝、後藤え行、稽古して帰り、額面認上ル。此日、井上豊太郎子、画の入門致され候。夜一更二臥。

(二月) 十日 辛巳

此日、後藤え行、稽古して帰り候。此日、京師より使ある。此夜、四更迄読書。

(二月) 十一日 壬午

此朝、子安伊織子来られ候。昼時より天王寺楚山先生え年礼に行。此時、隣家兩人同道にて真蔵院隠屋え行候処、画を認居られ候て、色々面白き事也。暫して帰り、東門にて右兩人に別れ、先生え行、暫遊ふ。夫より帰り、木津え寄、くま女、先中之島え帰し、私一宿する。此夜、難波常念寺御法坐にて参詣する。

(二月) 十二日 癸未

朝、帰り候。此日、額秋草にかゝる。夜、釜懸、上田おふきさま、おかめさま、お雪さま御出にて、一更迄茶の稽古する。四更迄読書、認物。

(二月) 十三日 甲申

朝、後藤え行、稽古して帰り、秋草認ル。夜三更迄人形着物仕立ル。

(二月) 十四日 乙酉

此日、一寸秋草認ル。又面に出物出来、昼後、**ひる懸ル**。夜三更迄仕立物。  
\*ひる(蛭)

(二月) 十五日 丙戌

此日、秋草認ル。井上さまより呼に來、先辻さまえ行、暫咄し帰り、夫より井上さまえ行、手本認。七ツ時迄居、夫より帰り、一寸認物して、夜、手本認ル、三更迄。此日、出物大**変いたむ**。

\*いたむ(痛む)

(二月) 十六日 丁亥

此日、秋草認上ル。此朝、後藤え行。夜三更迄読書。

(二月) 十七日 戊子

此日朝より井上さまニ誘れ、文樂え行。此時、芸、祇園祭礼。**半時**に帰り、二更二臥。  
\*半時(飯時)

(二月) 十八日 己丑

此日朝、後藤え行、帰り、立雛認にかゝる。此夜、三更二臥。

(二月) 十九日 庚寅

此日朝、後藤え行、帰り、昼後より木津え帰り、八ツ御座、難波常念寺え参り、又夕御座に参り、木津にて一宿。

(二月) 廿日 辛卯 (元治ト改元)

此朝、木津より帰り候途中にて、井上さま下男ニ逢候処、長州振舞にて席画願ひ度よし申され、又井上さまえ行、早々帰り候。此日、**昼半後時**より呼に來、市兵衛さま店二人連にて尼ヶ崎橋より船にて行、途中より長州留主居外二人、べ三人連にて金国堂え行、最初下にて薄茶、夫より楼え上、酒宴、席画する。夫より大七え行、又酒宴。美人五人。暫して駕にて帰り候。二更也。

\*昼半後時(昼飯後時)

(二月) 廿一日 壬辰

朝、後藤え行、帰り、立雛認ル。夜二更二臥。

(二月) 廿二日 癸巳

朝、後藤え行、帰り、立雛二幅、短冊壹枚認上ル。夜、茶稽古する、一更迄。

(二月) 廿三日 甲午  
朝、後藤え行、帰り、短冊認ル。夜二更二臥。

(二月) 廿四日 乙未  
朝、後藤え行、帰り、八ツ時より木津え帰り、夜、常念寺え参詣する。此日、御満坐にて二更二果ル。四更二臥。此日、下大和橋にて首懸ル。伊勢屋平兵衛の首也。北浜雁金にて切殺ス。

(二月) 廿五日 丙申  
昼時に中之島え帰り候。

(二月) 廿六日 丁酉  
朝、後藤え行、帰り、草稿認ル。此日難波御堂の門前に首懸ル。二人切腹いたし候。

(二月) 廿七日 戊戌  
朝、後藤え行、稽古して、帰り、此日、桜草稿認ル。此夕、母さま、弁之助連て来られ候て、母さま、此夜帰られ候。弁之助一宿する。此夜、釜日にて、上田両人さま来られ候て稽古する。

(二月) 廿八日 己亥  
此日、雨中にて終日コテ〜と暮らし候。

(二月) 廿九日 庚子  
此日、昼時より楚山先生え行。此道、天王寺野へにて、ふと方がく取違、行と〜桃花のみにて真に武陵桃源の如シ。暫興に乗て、終に人に尋ね〜て先生え参り候。暫く画の相談して、木津え帰り、早々中之島え帰る。此夜、船にて上京致し候。弁之助と同道也。  
\*野へ(野辺) \*方がく(方角) \*行と〜(行ど〜)

(三月)  
三月朔日 辛丑  
夜明かたに伏見え致し、仕度して、四ツ時、寺町え行、昼飯して、姉小路様え上ル。

(三月) 二日 壬寅

此日、御内雛祭りにて、御茶の間にて、蓮観院様、海浄さま、浄心さま御招遊し、後、薄茶手前、千重丸様遊し候後、良姫様、其後、私いたし候。

(三月) 三日 癸卯

此日、昼後より、千重丸様、良姫様、風早様えならせられ、御供いたし、御雛さま御馳走戴、終日遊ぶ。此時、風早様より雀の画の挨拶として、孝格天皇様より御拝領の甲の香合仁清拝領いたし候。夕方二帰り候。

\*孝格天皇(光格天皇)

(三月) 四日 甲辰

此日、千重丸様御病氣にて、皆々大心配いたし候。

(三月) 五日 乙巳

此日、石山様より袋棚の御襖四枚御頼遊し、父さまと同道にて石山様え上り、襖四枚認、又いろ／＼席画いたし、昼飯戴候て、夫より風早様え参り、又暫遊ぶ。夫より帰り、此夜、御役所にて、花初開、寄松祝、哥題にて当坐する。夫より、尋花日暮寄花恋、と読、夜通しする。

(三月) 六日 丙午

此早朝、石山殿様より御文下され候処、昨日相認候竹の画、ひとく思し召かなハされ、外の御襖みられぬ様二相成候まゝ、外の襖早々張替させられ候て、今日日帰坂延引しられ候様御申越れ候。此日、若殿様御哥会にあらせられ候へとも、御所より泉桶寺え御代参にて、夫ゆへ少々哥会遅参しられ候様仰せられ候まゝ、昼飯早々父さまと同道にて寺町え行、夫より祇園の辺え行候処、扱々ひととき人也。正護院のほとりにて一休、飯仕度して、三本団圓辺ふら／＼と帰殿致し候。真に花満開也。此留主中、石山様より度々呼に御遣しにて、早々石山様え参り、御新達御襖四枚竹認、済て当座する。夜雪、霜埋落葉。御兼題、尋花日暮、寄花恋。此時、五辻様、平松様、ならせられ候。近藤さまも居られ候。私事、又大殿様の御居間にて御酒戴、夫より又御小襖六枚認ル。夫より又御哥の御席にて、三更迄御咄し中、若殿様御手前にて薄茶戴、夫より帰り、四更二臥。

\*泉桶寺(泉涌寺) \*正護院(聖護院)

(三月) 七日 丁未

朝より出立。昼飯、寺町にていたし、父さま、私、弁之助、三人連にて伏見え八ツ時着。昼船一そう残居、幸乗船して、半時頃浪花え着致す。

\*一そう(一艘) \*幸(さいはひ)



(三月) 八日 戊申

此日、終日コテく〜とくらし候。弁之助、此朝、田舎帰り候。私事、面ニ又出物。

(三月) 九日 己酉

此日、父さまと同道にて井上さまえ行、暫咄して、金三郎さま相頼、高橋え入門する。高橋にて暫咄して帰り候。出物いたみ候。

(三月) 十日 庚戌

此日朝、父さま中城え向て帰られ候。私、此日、自読哥、写物する。

(三月) 十一日 辛亥

此日八ツ後、池田さま、子の百ヶ日にて**百万へん**に参る。馳走呼れる。此夜、手本認、三更二臥。

\*百万へん(百万遍)

(三月) 十二日 壬子

此日朝、後藤え行、稽古して帰り候。夜、釜懸、上田兩人来られ候て稽古する。一更二帰られ候て、三更二臥。

(三月) 十三日 癸丑

此日、辻さまより誘れ、住吉詣する。朝四ツ時前より船にて行。後室さま、お久のさま、其外次の人五人也。昼時、住吉え着致し、暫遊ふ。夕方ニ帰り候。

(三月) 十四日 甲寅

此日、後藤え行、稽古して帰り、コテく〜とくらし候。

(三月) 十五日 乙卯

此日、木津え帰り、夕方、中之島え帰り、夜一更二臥。

(三月) 十六日 丙辰

此朝、後藤え行、稽古して帰り、草稿認ル。夜一更二臥。

(三月) 十七日 丁巳

此朝、腹**いたみ**にて後藤休。夜、釜懸ル。夜三更二臥。  
\*いたみ(痛み)

(三月) 十八日 戊午

此日、後藤え行、稽古して帰り候。此日、高橋哥会にて、八ツ時過より行。通題、菜花、当座する。咄し色々有、面白き事也。夕方二済、帰り候。夜一更二臥。

(三月) 十九日 己未

此朝、後藤え行、稽古して帰り、草稿認。此夜、三更二臥。

(三月) 廿日 庚申

此朝、後藤え行、稽古して帰り、**移認**、又半切一枚認ル。此夜、和歌する。一更二臥。

\*移(稿)

(三月) 廿一日 辛酉

此朝、後藤え行、稽古して帰り、昼時より楚山先生え行候処、あやにく先生御留主にて、先生美濃え御出遊し候也。又幸に御釜懸られ候て、薄茶呼れ、帰り、木津え行、暫咄して、七ツ後時より中之島え帰り、夕暮過也。此夜、読書。二更二臥。

(三月) 廿二日 壬戌

此朝、後藤え行、稽古して帰り、昼時より細矢え行、一手前稽古して、又花月する。夫より帰り、釜懸ル。上田兩人、お雪さま御出にて、稽古する。夜三更迄作図。此日、久万女、木津え遣し候。

(三月) 廿三日 癸亥

此日、後藤え行、稽古して帰り候。此日、久万女、木津え遣し候。此日、京師より十九日出の紙包、着致し候。此日、清書卷認ル。上田さまの彩色物する。書、稽古する。二更二臥。

(三月) 廿四日 甲子

此日、後藤え行、稽古して帰り候。此日昼後より、久万女病氣にて木津え帰り候。上田さまの彩色物する。二更二臥。

(三月) 廿五日 乙丑

此日、上田さまより誘引しられ候て**五霊**の芝居え行、**半時頃**に帰り、夫より夜ナへ。二更二臥。此日、子安伊織子来られ候へとも、私留主中にて不逢也。

\*五霊(御霊) \*半時(飯時)

(三月) 廿六日 丙寅

此日、終日コテく〜とくらし候。夜二更二臥。

(三月) 廿七日 丁卯

此日八ツ時より井上さま別荘へ行。夫より高橋文会に参り候はつこの処、終日別荘にて遊ぶ。日暮後に帰り候。三更迄彩色物する。

\*はつ(筈)

(三月) 廿八日 戊辰

此日、扇面五拾枚認上ル。夜三更迄彩色物する。此日、釜懸ル。

(三月) 廿九日 己巳

此日、扇面二十枚認上ル。夜二更二臥。此日、高橋さまへ行候処、留主中にて、夫より木津へ行、濃茶稽古する。

(三月) 晦日 庚午

此日、彩色物して、七ツ時より木津へ帰り一宿する。此日、井上さまより、北野別荘にて、高橋、宇和島と哥の遊ゆへ、呼に來られ候へとも、残念ながら不得行候。

(四月)

四月朔日 辛未

此朝、木津より帰り、昼後より上田さまと同道にて十叟へ行。此処、遊人大ぞふ集り、扱々賑々しき事也。日暮前二帰り候。此時、長堀板屋橋火。三更迄焼ル。此日、京師油包出。  
\*十叟(十三)

(四月) 二日 壬申

此日、釜懸ル。上田兩人御出にて稽古する。夜三更二臥。

(四月) 三日 癸酉

此日、終日コテく〜とくらし候。夜三更二臥。

(四月) 四日 甲戌

此日、円力掛認にかゝる。此日、夕方より木津へ帰り候て一宿。

\*円力掛(円刀掛)

(四月) 五日 乙亥

早朝、中之島え帰り候。力掛彩色にかゝる。此夕、松樹千年、三首読。

\*力掛(刀掛)

(四月) 六日 丙子

此日、七日の取こし。釜懸、上田さま兩人御こしにて稽古する。夜三更迄画。

(四月) 七日 丁丑

此日昼時後より北野席にて宇和島屋敷山田、藤田催有。雨中なから参り、此日、卯の花の題濟、画題物認ル。大はつみにて、夕方後に済て、帰り候。

\*大はつみ(大弾み)

(四月) 八日 戊寅

此朝、手本五冊認候て、木津え帰り、夫より母さまと同道にて天王寺楚山先生え行。楚山先生美濃より御帰りに候へとも、此日、外出致され留主中にて、早々帰り候。七ツ時也。夫より唯専寺行、暫遊ふ。帰り、手本認、臥。

(四月) 九日 己卯

此日朝、木津え行、甲香合、見てもらいに行、暫稽古見て帰り候。此日、手本六冊認ル。夜一更二臥。

(四月) 十日 庚辰

此日、刀懸認ル。夜二更二臥。

(四月) 十一日 辛巳

此日、刀懸認ル。此日七ツ時、京師より八日出の包着。夕方、上田さまと五霊え詣して帰る。二更二臥。

\*五霊(御霊)

(四月) 十二日 壬午

此日、八ツ上りして、木津え帰り一宿する。

(四月) 十三日 癸未

早朝、中之島え帰り候。此日、子達昼上りして、新地首振ニ上田さまに誘れ行、夕暮後に帰り候。此日、京師え包出す。

(四月) 十四日 甲申

此日、八ツ上りして、木津え帰り候。此日、前垂島に御遠忌勤り、夫え参詣する約束いたし候て帰り候へとも、母さま、あまり御待兼遊し候へとも、時刻遅く成候まゝ、先行れ候処、半道位にて、あまり人ひとく候まゝ、跡もとりに致され候て、夫より天下茶やえ行れ候て、御留主中ゆへ、私、唯専寺え行、遊ぶ。夕暮後に帰られ候て一宿する。

\*遅く(遅く) \*跡もとり(後戻り) \*天下茶や(天下茶屋)

(四月) 十五日 乙酉

早朝、中之島え帰り候。此日、子供半日上りして、丸刀懸認ル。夜、縫物。一更二臥。

(四月) 十六日 丙戌

此日、扇面四十枚認上ル。夜通し哥読。

(四月) 十七日

此日、井上氏より御頼の半切相生の松認ル。夜一更二臥。

(四月) 十八日

此日八ツ後時より清園宅にて順会に参り、当坐通題、月前盧橘、二首読て、日暮に帰り候。

此日、京師より文来。夜三更二臥。

(四月) 十九日

此日朝、高橋より会文来。宇和島餞別会、催主井上さま遊し、此題、首夏櫛、此日読。此会二付、画題物認てくれ様申され、夜三更迄考物する。此夜、風邪にて候へとも、をして夜ナへいたし候。此日より少々右の足先いたみ候。

\*をして(押して) \*いたみ(痛み)

(四月) 廿日

此朝、起候へは足立す、甚困り、みなく子達来られ候を待て、女中に森さま遣、井上さまえも会断の文出。昼前、井上市兵衛さま御出にて、画題物唐紙置て行れ候。夫より森さま御見舞被下、ちらし薬かけて、ひるを懸ル様申され候。暫森さまの居られ候時、画題物認ル。此昼時、辻さまより、法事にて私呼に來られ候へとも、右痛にて御断申候へは、又々御後室さま御安事遊し、度々御見舞に人遣され候。此日、画題物色紙十八枚認ル。此夜通し痛つめ、もはや死ナントいたし候。

\*足立す(足立ず) \*ちらし(散らし) \*ひる(蛭) \*安事(案じ) \*つめ(詰め)

(四月) 廿一日

此明かたに成て少々ねむり候。此日ハ又痛ひとく、中々きのふの様にてなく、ひとく候也。此朝、又辻さまより人下され、木津えしらせに行れ候。此日八ツ時後、母さま来てくれられ候。夕方に、おこう来られ候。先々此夜、安心して夜も寐られ候。

(四月) 廿二日

此早朝、母さま帰られ候。終日臥。良薬さま見舞てくれられ候。

(四月) 廿三日

此日、臥。種物えひる懸ル。

\*種物(腫物) \*ひる(蛭)

(四月) 廿四日

此日、少々一足二足ほど歩行出来候也。

(四月) 廿五日

此日、又追々よろしく、門まで出られ候也。

(四月) 廿六日

此日、追々よろしく候。

(四月) 廿七日

此日、追々よろしく候。

(四月) 廿八日

此(日)、丸刀掛認ル。

(四月) 廿九日

此日、大かたよろしく候。

(五月)

五月朔日 庚子

此日、初て辻さまえ御礼二行、昼飯呼れて帰り候。夫より、うた連て木津え行、天王寺え行つもり、歩行出来かね、杖ついて日暮て中之島え帰り候。

(五月) 二日

此日、京師よりの衣物、**大いそき**ゆへ、仕立ル。此日、釜懸ル。上田二人、隣家二人、竹の内子来られ候。此日、後藤え御礼二行。

\*大いそき(大急ぎ)

(五月) 三日

此日、辻さまえ行、暫して帰り候。

(五月) 四日

此日、こう女帰り候也。

(五月) 五日

此日、釜懸ル。

(五月) 六日

此日朝、辻様え御礼二行。此日、天王寺や伊十郎子、画の入門致され候。七ツ時より井上さまえ行候処、御酒、夕飯呼れ候て、帰り候処、津田安子、外二人来られ候て、日暮て帰られ候。

(五月) 七日

此日、釜懸ル。辻さま、上田さま、隣家来られ候。此日、七ツ時より木津え帰り候処、木津、彦根着致され候。夜七ツ時也。此日七ツ時、將軍着。

(五月) 八日

早朝、木津より帰り候処、弁之助、昨夜一更後二来、留主中二一宿致し居り候也。此日暮、帰り候。此日、安子来られ候。

(五月) 九日

此日、伊十郎子、稽古に來られ候て、七ツ時に帰られ候。

(五月) 十日

此日、半切一枚認ル。和歌。

(五月) 十一日

此日、半切一枚認ル。夜、読書。此夜、難波村出火。此日、田淵庸女入門有。此日、將軍

天保山行、朝四ツ時、馬にて向通られ候。

(五月) 十二日

此日昼後、井上氏えおしへに行、帰り、八ツ上りして、炭屋尋に行、帰り懸、辻さまえ行、夕飯呼れ候て帰り候。此早朝、京叔母、弁之助送りて来られ候。

\*おしへ(教へ)

(五月) 十三日

此日、釜日にて、辻新さま、隣家二人、上田二人御出にて、終日遊ぶ。

(五月) 十四日

此日、画稽古日、天伊子来られ候。

(五月) 十五日

此日朝、井上さまえをしへに行、夫より辻さまえ寄、昼迄遊ぶ。帰り、裾模様下絵認ル。

\*をしへ(教へ)

(五月) 十六日

此日、將軍関東え帰られ候二付、辻さま大せい、早朝より御越。昼時、前川船にて御通有、大雨中。朝、極日和能。此日、七ツ時前より木津え帰り候へとも、彦根士来り居り候まゝ、唯専寺にて一宿する。此時、京師前田居られ候。

\*彦根士(彦根藩士)

(五月) 十七日

朝七ツ起、彦根六ツの共揃にて京師え帰られ候。私、此時、中之島え帰り候処、三宅叔母泊られ候。此朝、京師え帰られ候。又前田子、昼時来られ候て、暫居られ、八ツ後時より尼ヶ崎え行れ候。

\*共揃(供揃)

(五月) 十八日

此日、釜日にて、内藤直江さま、久のさま、辻さま御出にて、終日遊ぶ。

(五月) 十九日

此日、画の稽古日にて、金井さま、源兵衛子来られ候。此日八ツ時、山口さま縁段之義二付、私方え御出にて、暫居られ候。此時、前田、尼より帰られ候て寄られ候。夫より日本橋魚佐え行れ候。



\*縁段（縁談） \*義（儀）

（五月） 廿日

此日、子供半日して、昼時より木津え帰り候。三部経貫イ相濟候処、夕暮にて一宿する。此日、前田、唯専寺に居られ候。此夜、船にて帰京仕られ候。此夜一更の頃、天神橋にて、内山、役所より帰り懸、首取られ候。

（五月） 廿一日

早朝、木津より帰り候。扇子二本認候。

（五月） 廿二日

此日、奉幣使、宇佐えならせられ候。七ツ時前、加島屋作兵衛方にて御一泊有せられ候。

（五月） 廿三日

此日、釜懸、隣家兩人、内藤久の、辻さま、牧村おうめ子 此人三条様に居られ候人也、上田かめ女、日暮迄。

（五月） 廿四日

此日、画稽古日にて、金井兩人来られ候て、日暮迄。

（五月） 廿五日

此日、上田さまより誘れ、五霊の芝居え行、七ツ時、喧嘩にて帰り候。

\*五霊（御霊）

（五月） 廿六日

此日、扇子二本認ル。此朝より右の足の裏え種物出来、いたみ候。此日、木津より人来り候。法楽直藏、画入門。上田和吉、入門。

\*種物（腫物）

（五月） 廿七日

此日、扇子一本認ル。寐たり起たりいたし候。

（五月） 廿八日

此日、釜日にて、隣家お雪さま、内藤久のさま、上田兩人来られ候て、日暮迄居られ候。扇子一本認ル。

(五月) 廿九日

此日、画の稽古日にて、金井氏来られ候。

(五月) 晦日

此日、八ツ上りして、木津え帰り候。一宿する。

(六月)

六月朔日 庚午

朝、楚山先生え行、良暫珍談。夫より帰り懸、山口え寄、又暫咄有、昼飯呼れ、又暫して  
帰り、八ツ時より母さまと同道にて心斎橋迄行、七ツ時前二帰り候。

(六月) 二日

此日、十四枚扇面認ル。

(六月) 三日

此日、釜日にて遊ぶ。此夜、四更迄扇面認ル、十四枚。

(六月) 四日

此日、画稽古、朝来られ候。夜二更二臥。昼夜にて廿二枚認ル。

(六月) 五日

此日、急に池田氏頼みに参られ候て、八ツ時より蓮池屋敷え行、席画いろく面白き事也。  
七ツ時に帰り候。此夜、京師騒動起。

(六月) 六日

此日、扇面認ル。夜三更二臥。此日、玉藤にて鬮引会出席頼みに参り候。文鳳、私、得不  
行候也。

(六月) 七日

此日、扇面認ル。

(六月) 八日

此日、扇面認ル。此日七ツ時前より石田信治郎来、一宿する。私、隣家にて一宿致し候。

(六月) 九日

此日、信道帰り候。此朝、金井子、稽古に来られ候。扇面認ル。

(六月) 十日

此日、扇面認ル。

(六月) 十一日

此日、京師より便有。八日出也。扇面認ル。此夕、五霊え参詣する。夜三更二臥。此朝、辻さまえ行、金子十二両預ル。

\*五霊(御霊)

(六月) 十二日

此朝、卯野え沈香調に行、夫より煙管屋え行候。此日、京師え沈香出。此日、横物二枚認。

(六月) 十三日

此日、扇面認ル。

(六月) 十四日

此朝、金井子、稽古に来られ候。

(六月) 十五日

此日日中より木津え帰り懸、瓦屋橋吉井え行、七ツ時迄遊ふ。夫より木津え行、一宿する。

(六月) 十六日

早朝、楚山先生え行、昼時迄遊ふ。夫より帰り、日暮より中之島え帰り候。

(六月) 十七日

早朝より腹痛にて臥。終日臥。七ツ時より起ル。

(六月) 十八日

此日、扇面認ル。此日、釜日にて、辻新さま、内藤さま来られ候。

(六月) 十九日

早朝、金井子、稽古ニ来られ候。此日、扇面認ル。

(六月) 廿日

此日、扇面十枚認、夜五更迄。

(六月) 廿一日

此日、扇面十枚認。

(六月) 廿二日

此日、扇面廿枚認ル。夕、向側え調に行。此日、大江橋普請出来上り候。

(六月) 廿三日

此朝、高橋宗匠暑中見舞に來られ候。竹鴉子來られ候。此日、京師え暑中見舞出す。此日、長州勇士大勢、京師え上られ候。則、大川町通られ候。

(六月) 廿四日

此日、扇面殘認ル。べ二百枚也。此夕、山口さま一寸庭迄來られ候。辻御後室さまも來られ候。此日、後藤さまえ暑中見舞に行。

(六月) 廿五日

此日八ツ後時、京前田、外三人連にて來られ候。御渡御済て歸られ候。此夕、宮原先生、おと女さま連て來られ候。右先生の御連五人、私方にて拝見仕られ候。御渡後、早々歸られ候。当年ハ格別船賑々しく候。御渡、**半時**也。御歸り四ツ時也。

\*半時(飯時)

(六月) 廿六日

此日、井上氏え**おしへ**に行候。日暮より木津え歸り一宿する。

\*おしへ(教へ)

(六月) 廿七日

此日早朝、中之島え歸り候。此日中、隣家釜懸、呼れる。此日、美人草稿認ル。扇子二本認ル。此日七ツ時、前田子來られ候。早々歸られ候。

(六月) 廿八日

此日、半切手本二枚認。此日、釜日にて、内藤久の子、上田兩人、隣兩人來られ候。夜、四更迄作図する。

(六月) 廿九日

此朝、金井子、画の稽古に來られ候。

(七月)

七月朔日

此日、美人認にかゝる。墨書のみする。夜、三更二臥。此日、京師より便有。

(七月) 二日

此日、うちハ一本認ル。此日、日暮より木津え帰り一宿する。

\*うちハ(団扇)

(七月) 三日

早朝、帰り候。

(七月) 四日

子供上り候てより掃事する。此日、画稽古日にて、金井兩人来られ候。此日、掃事する。

此日、京師え文出。

\*掃事(掃除) \*掃事(掃除)

(七月) 五日

此日、七夕にて、夕方より、おとり大はつみにて、一更二済。此日、久満女手伝に来る。一宿する。

\*おとり(躍り) \*大はつみ(大弾み)

(七月) 六日

朝、木津え帰り候。七夕にて終日さハかしき事也。夕方、おとり。

\*さハかしき(騒がしき) \*おとり(躍り)

(七月) 七日

此日、七夕当日にて振々しく、夜、おとりにて、一更二済。

\*振々しく(振賑々しく) \*おとり(躍り)

(七月) 八日

此夕、中之島え帰り候。

(七月) 九日

朝より美人ニかゝる。昼後より用向にて後藤え行。夫より帰り、扇面二百枚、京浪花地名入る。此日、京師より文来。手本一冊認ル。

(七月) 十日

朝、七ツ起にて、隣家兩人、私、三人連にて天王寺え参詣する。光正寺え寄、おはき呼れ、夫より生玉の蓮、暫詠候て、四ツ時に帰る。夫より細工物の面四ツ認、灯籠の下画作。

\*おはき(御萩)

(七月) 十一日

此日、川しま灯籠認ル。此日、京師より文来。

\*川しま灯籠(川島灯籠)

(七月) 十二日

此日、玉泉寺灯籠認ル。夕、梶木町後藤さまえ中元御祝儀持候て、先生女客有、ひとく留られ候へとも、暫して内藤え行、良久しく遊ぶ。調物して帰り候。

(七月) 十三日

此日、掃事する。

\*掃事(掃除)

(七月) 十四日

此日、美人彩色にかゝる。夕、諸払済。一更迄納涼する。

(七月) 十五日

此日朝、上田氏より呼に來、蛤雲亭にて薄茶吸、暫遊ぶ。夫より帰り、井上氏え御礼に行、暫遊ぶ。喜厚君、哥の咄しにて長坐。夫より辻様え行、キヤウ水して、身こしらへして帰り、子供おとり、一更迄。二更二臥。

\*キヤウ水(行水) \*こしらへ(拵へ) \*おとり(躍り)

(七月) 十六日

朝より木津え帰り、日中、墓参りして帰り、七ツ時前より中之島え帰り、夫より遠国、又おとり、一更迄。

\*おとり(躍り)

(七月) 十七日

此日、終日遊ぶ。夜五更迄哥読。

(七月) 十八日

此日、美人認上ル。此日、子供稽古初。夜二更二臥。

(七月) 十九日

朝起候へは、城中よりノロセ上り、世間ノウハさ、異国船とも、或京師の大変とも、何やらさつはり訳分らず候処、日中より京師の火事、中々大火非常。此朝、堂島寄場小笠原安十陣所かまへ、世間一統騒動。至此夕、火益ひとく相成、夜通し、上町より荷物処々方々え相はこひ候。私方も大てい夫々相しらへ置候。

\*ノロセ(狼煙) \*ウハさ(噂)

(七月) 廿日

此日朝より、大せい逃くる人、又荷物はこふやら、中々門大困雜。此夕、長州はい軍のよし聞、又中川首打取候由聞。

\*大困雜(大混雜) \*はい軍(敗軍)

(七月) 廿一日

此朝、上様、長州、加州、イツチシテ、長州え御供して、丹波越にて御下りあらせられ候よし聞、先々安心いたし候。此日、子供あけて、昼後、木津え帰り候。夕、中之島え帰り候也。

\*イツチ(一致)

(七月) 廿二日

此日、昼後八ツ時より、又世間さハきかけ、長州屋敷焼払に相成候由、説いたし候処、又長州屋敷立ノキ仰付られ、米紙夫々蔵本え渡し、早々留主居、船にて長州え帰られ候。夫ニ付て、此夜、中之島焼払之風説有。此夜、近所女子供、皆々逃去。私、四ツ時まで門にて涼。此夜、隣家にて泊。此日八ツ時後、薩州出水ハタ立て武者、京師より帰り、船、唐津の浜え着、夫より岡歩して、薩屋敷え帰り候。真に大ヨハリ。私、見に行候也。此夜も何事もなく相済候。

\*さハきかけ(騒ぎかけ) \*立ノキ(立退き) \*大ヨハリ(大弱り)

(七月) 廿三日

此朝、私、木津え帰り候。母事ひとくあんしられ、いろく説の中、勝手よき説斗取て心をなため、先々一日相くらし候。此日七ツ時、寺田善治郎来、是も大あんしにて、私事、中之島え呼に来るはつの処、木津に居り候ゆへ先々安心、何分今暫木津に居る様、くれくも頼居り候。此時、米五升持来り候。世間一統米不売、大困り候。此日より長屋敷、公

儀より**ブチクダキ**候。

\*あんし(案じ) \*大あんし(大案じ) \*はつ(筈) \*ブチクダキ(打ち砕き)

(七月) 廿四日

地藏祭、又延引して出来ぬやらと存して、供養いたし、此日、何事なく相くらし候。

(七月) 廿五日

此朝、楚山先生え御見舞に行候也。逃人大せい、大騒動。本堂にて拝顔して、暫風説斗聞候て、帰り候。此夕、吉井来、いろく咄、是も不説而已、暫して帰られ候。

\*不説(浮説)

(七月) 廿六日

朝早、中之島え帰り、又々よき**うハさ**にても聞たくと楽しみて帰り候処、中々よきにあらす。上様京師に御坐あらせられ候よしにて、長州、弥朝**てき**におとしいれ、真に**たんそく**して死る心地也。此日より後藤え稽古に行。

\*うハさ(噂) \*てき(敵) \*たんそく(嘆息)

(七月) 廿七日

朝、後藤え行、稽古して帰り候。

(七月) 廿八日

此日、唐津藩、画取に来り候。此日、板餅弁之助見舞に来り、一夜寐て、私、隣家にかりねする。

(七月) 廿九日

早朝に帰り候。此日、画の稽古日、源兵衛子ノミ来り候。此日八ツ後より木津え帰り候。かりねして、(翌日へ続く)

(七月) 晦日

六ツ起して帰り候。夫より後藤え行、**講訳**聞て、帰り候。唐津某長谷川善兵衛の頼みの画、認にかゝる。

\*講訳(講釈)

(八月)

八月朔日



此日昼後より住よし橋辺大火。一更ニ大てい火しつまり、三更ニ止。  
\*しつまり(鎮まり)

(八月) 二日

朝、後藤え行、**講**聞て、帰り候。全紙一枚、半切二枚認。此朝、井上氏え教ニ行て、帰り候処、今宮山口氏来、金井**縁段**返替之義、金井常七子、賄山勘、皆々八ツ時ニ帰られ候。此七ツ時、唐津藩来り候。

\*講聞(講積) \*縁段(縁談) \*義(儀)

(八月) 三日

此日、後藤え行、**講**聞て帰り候。半切二枚、横物二枚認ル。此日夕暮より大雨、大雷六ツ斗落る。一時して晴天也。

\*講聞(講積)

(八月) 四日

此日、画稽古日にて後藤休。此日より世間一統謡鳴物禁。禁中御心配中故也。

(八月) 五日

此日、後藤え行、稽古して帰り候。八ツ上りして、辻氏え教ニ行候。七ツ時より木津え帰り一泊する。

(八月) 六日

明六ツ起て、帰り、夫より後藤え行、稽古して帰り候。

(八月) 七日

朝、後藤え行、稽古して帰り、辻氏え教に行候。此早朝、辻店清七子、京師より帰られ候て、三宅逃られ候処、尋ねて来られ候。則、建仁寺町四条下ル囊物屋近孫ニ居られ候。

(八月) 八日

朝、後藤え行、稽古して帰り、井上氏え教に行。此夕、**五夜**の頃より大風、深更ニ至て益甚。

\*五夜(五更)

(八月) 九日

此日、画稽古日。松栄堂、かさや、稽古初也。朝七ツ起いたし候。表戸障子ふりはつれ、大騒動也。昼に至て、少々風止。此日、**二百廿**也。

\*ふりはつれ(振りはつれ) \*二百廿(日)

(八月) 十日

朝、後藤え行、帰り、八ツ後、井上、辻え教に行候。

(八月) 十一日

朝、後藤え行、帰り、扇子認。夜二更迄読書。

(八月) 十二日

朝、後藤え行、帰り、八ツ後、辻氏え教二行候。法帖認ル。唐津しるし認ル。夜一更迄読書、和歌。此日、京三宅え文出。

(八月) 十三日

朝、後藤え行、帰り、八ツ後、作図する。金井氏、画稽古に來られ候。夜三更二臥。

(八月) 十四日

朝、後藤え行、帰り候。此日、画稽古日。此夕方より後藤え書願置候。夫持参して木津え帰る。一泊する。

(八月) 十五日

早朝、楚山先生え行、昼時迄咄、帰り、コテ／＼して、夕方より中之島え帰り候。此望月、曇天にて、一更後より少々見へつかくれつ致し候。二更二臥。此日、京三宅より文來。

(八月) 十六日

朝、後藤え行、帰り、八ツ後より井上氏え教に行、良暫咄して、辻氏え行、教して、夕飯呼れ候て、帰り候。夜三更二臥。読書、和歌。此日、京三宅え風呂敷包出。

(八月) 十七日

朝、後藤え行、稽古して帰り候。夜五更迄読書、和歌。

(八月) 十八日

朝、後藤え行、稽古して帰り、八ツ後、辻さまえ教二行、夫より高橋え行。此日、題、秋夕雨。日暮て帰り候。

(八月) 十九日

此朝七ツ時より雷鳴、朝四ツ迄大雨、雷益ひとく成、至昼に止。此日、画稽古日。夜三更

二臥。

(八月) 廿日

朝、後藤え行、稽古して帰り、此日、殿様御退夜にて、子達早習にて遊ぶ。隣家釜懸、呼に行。

(八月) 廿一日

此日朝より隣家兩人、私と三人連にて大師廻り懸て、天王寺彼岸参りする。此朝、木津より飛脚来、京師より唯専寺え向ての文着。御殿も皆々さま御けかのふ御逃遊し候由、始めて承り先々安心致し候。朝、出懸、打敷蓮認ル。此日、天王寺春田氏え行、薄茶呼れ、会席にて昼飯呼れ、夫より真藏院え行、又飯呼れ、院主さまの居間にて暫遊ぶ。夫より又大師廻りくゝて、夕方に帰り候。

\*けかのふ(怪我無う)

(八月) 廿二日

此朝、後藤え行、帰り候処、唐津藩長谷川善兵衛来、頼のみの画持帰る。又画頼み候。終日画認ル。夜三更二臥。

\*頼のみの(たのみの)

(八月) 廿三日

朝、後藤え行、稽古して帰り、此日、終日認物する。夜三更二臥。

(八月) 廿四日

朝、後藤え行、稽古して帰り、七ツ後より木津え帰り一宿する。

(八月) 廿五日

早朝より天王寺楚山先生え行、後藤先生の書、持参する。暫咄して帰り、今宮山口え寄、又暫して帰り候。夫より帰り候はつ<sup>つ</sup>の処、雨中にて、又一宿する。

\*はつ(筈)

(八月) 廿六日

早朝、中之島え帰り候。八ツ後、辻氏え教二行、夕飯呼れ候て、帰り候。京師より廿五日出の文来。則返事也。此夜、三更迄哥あん<sup>あん</sup>しる。

\*あんしる(案じる)

(八月) 廿七日

朝、後藤え行、学文して帰り、此日、井上氏え教二行、暫喜厚君と哥のはなして帰り候。夜三更迄読書。

\*はなして（咄しして）

（八月） 廿八日

朝、後藤え行、学文して帰り、夜二更迄読書。

（八月） 廿九日

此日、画認ル。夜、写し物。此日、画稽古日。此日、京師より文来。

（八月） 晦日

此朝、伊太郎子、画稽古に来られ候。此日、夕方より木津え帰り一宿する。

（九月）

九月朔日

此日、終日木津に居り候。又一泊する。

（九月） 二日

早朝、中之島え帰り候処、弁之助、昨日来り候て一泊致し候。此日、夜舟にて上京致し候。風呂敷包、姉小路さまえ相出候也。

（九月） 三日

此日八ツ時より井上さまえ教に行、又画手本認ル、七ツ時迄。夜、写し物、三更迄。

（九月） 四日

此日、画稽古日。夕方より木津え帰り候。一宿して、（翌日へ続ク）

（九月） 五日

早朝、帰り候。此日、写し物。夜三更二臥。

（九月） 六日

早朝、弁之助、お富子、岩吉、三人連にて帰り候。夫より、お富子、岩吉連て、はり徳方々え行、木津にて大かた一宿と申候。弁之助も八ツ時より木津え帰り候。夜三更二臥。

（九月） 七日

六ツ起して掃事する。夜二更迄和歌。

\*掃事（掃除）

（九月） 八日

七ツ起して読書する。諸払済て、夕方より木津え帰り懸、心齋橋辺より少々雨降出し、戎橋より大雨、中々口にも言難尽大雨如棒、其上大雷、漸土橋前迄行、雨宿りする処もなく、漸一軒家、明り有。先々其内えニケ込、ぬれ鼠の如也。右内にて暫休足して、其内雨も小降ニ相成候て、木津え帰り候。

\*ニケ込（逃ケ込）

（九月） 九日

此朝、寺田叔父来、暫咄して帰られ候。母さまと私、二人連にて天下茶屋え行、山遊する。夕方より木津え帰り候。又木津にて一宿。此日より眼あしく候。

（九月） 十日

此日、終日木津にて滞留。夕方より母さまと同道にて心齋橋迄行候処、又稻妻シキリにいたし、夫より早々母さまハ木津え帰られ、私、中之島え帰り候処、折よく此日隣家釜懸、此時、内藤永橋子、小生来、薄茶吸候処、大雨大雷、益甚相成、一更二止。

（九月） 十一日

此日八ツ後、辻さまえ教に行、夕方に帰り候。此朝、文章手本認ル。此日夕方より雨雷如昨日也。

（九月） 十二日

此日八ツ後、井上氏え教に行、帰り懸、七ツ時夕立。此日、京堺屋、三宅、姉印え便する。

（九月） 十三日

此日八ツ上りして、辻氏え教に行。此日、至而眼病甚しく相成候。夜七ツ時迄和歌、読書。

（九月） 十四日

此日、画稽古日。金井子来、外三人共来。

（九月） 十五日

此日、朝より木津え帰り、手本認ル。夕暮後に帰り候。此日、姉印さまより店走り書状着。

（九月） 十六日

此日、子供半日上りして、井上氏え教に行、帰り懸、辻氏え教に行、帰り、七ツ時也。

(九月) 十七日

権現祭りにて休日。八ツ時迄作図草稿する。八ツ時より木津え帰り、手本認。夕方より帰るはつにて、難波新地河新迄行候処、南辺あしき雲出、稲妻シキリニひとく相成、又々木津え引戻り候。此夜、京師え風呂敷包出。

\*はつ(筈)

(九月) 十八日

朝、中之島え帰る。八ツ上りして、高橋え会日にて参り候。兼題、山家秋。夕方後に帰り候。暫して大雨大雷、二更二止。

(九月) 十九日

此日、画稽古日。人丸像草稿致す。夜一更迄読書。

(九月) 廿日

此日八ツ後より人丸像二幅認ル。此日、勝間長源寺主来候。画頼まれ候。此日、隣家釜日にて呼れる。

(九月) 廿一日

此日八ツ時後より辻氏え教に行、七ツ時に帰る。此日、大山喜三郎入門する。

(九月) 廿二日

此日八ツ時後より井上氏え教に行、七ツ時に帰る。

(九月) 廿三日

此日、勝間長源寺役僧来、弥廿五日より子供休日繰合候て来てくれ様申来候。まつ／＼肖像約定いたし候。此日、八ツ上りして、楚山先生え相談に行候処、先生、柳谷え認物に御出にて留主中。木津にて一宿。

\*肖像(肖像)

(九月) 廿四日

朝、中之島え帰り候。此日昼時、吉井文堂子来、暫して帰り候。此日、一寸後藤え行候。夜、夕方、木津え帰り候。

(九月) 廿五日

朝より母さまと同道にて天下茶屋迄行、夫より下女連て長源寺え行。此日、土州家老山内包吾様、高津え参詣致され、本堂鏡戸墨梅認ル。近習衆皆々認物見に来られ候。梅認上て、二枚折墨竹認にかゝる。

(九月) 廿六日

此日早朝より墨竹認上て、包吾様の御頼全紙嵐山認ル。其内、扇子、扇面、沢山認ル。昼後より席画。三幅対半切認、外扇子三十本斗。夫より休足二して、又外人の認物沢山する。夕方より又席画。扇面あるいハ唐紙小切画題物、是三十枚斗認ル。夜三更二臥。

(九月) 廿七日

朝より昼迄認通す。昼飯呼れ候て、早々帰り候。認物皆々持帰る。八ツ時に木津え帰る。此日、手本認物有之候て、木津にて一宿。

(九月) 廿八日

朝、中之島え帰り候。八ツ上りして、辻氏え教に行、七ツ時に帰り候。此夜、眼痛にて早寐する。

(九月) 廿九日

此日、画稽古日。此日、京師より紙包来。高麗橋、沈香調に行。夜三更迄和歌。

(九月) 晦日

此朝、上田氏、画、外書物頼みに来られ候。昼後、土州久徳氏来られ候。暫して帰られ候。八ツ上りして、井上氏え教に行、七ツ時に帰り、半切二枚認ル。此日、高橋え行候処、宗匠留主中。此日、京師え風呂敷包出。夜三更二臥す。

(十月)

十月朔日

此日、子供半日休して、認物にかゝる。此日、上田氏来られ候て、三幅対絹地花鳥相頼れ候。八ツ時、土州桑名子来られ候て、山内さまの御頼全紙嵐山の図、急に認様相頼れ候。暫咄して帰られ候。夜三更二臥。

(十月) 二日

此日より嵐山にかゝる。認上ル。夜三更迄読書、歌。

(十月) 三日

此日、池内精吉子の四季山水にかゝる。此日、京師より文来。父さま、四日頃より御帰りの赴也。此日、京師え返事出す。夜三更二臥。此日、高橋え行候処、又宗匠留主中。

(十月) 四日

此日、稽古日。朝、金井氏来られ候。此日、井上氏より呼に來り、行候処、山田亀之助子、画の入門致され候。夕飯呼れ候て、帰り候。夜、和歌、読書、三更迄。

(十月) 五日

此日、四季山水認上ル。夫より全紙鯉認ル。夜三更二臥。

(十月) 六日

明六ツ時、父さま御帰り遊し候。彦兵衛御供也。此日朝、対州屋敷え行れ、夫より辻氏え行れ、昼時に帰られ候。此日、土州池内精吉子来られ候。良久しく風流咄して帰られ候。夫より父さま、彦兵衛連て木津え帰られ候。其後、対州青木建右衛門来、私認物見て帰られ候。鯉認上ル。夫より久徳子の全紙前赤壁にかゝる。夜一更迄画、三更迄読書、和歌。

(十月) 七日

此朝より父さま長野え行れ候。太兵衛、早朝荷物取に來。此日昼時、長源寺来られ候。又屏風一組、全紙猛虎頼居られ候。此日、前赤認上ル。夜、読書、三更迄。

(十月) 八日

此日、手本物、終日認ル。此夕、南部屋敷中山余一郎と申人來、絹地画書頼居られ候。則、一条友治郎と申人の好也。夜三更迄手本認、読書する。

(十月) 九日

此日、稽古日。此日昼時、土州人、画頼みに來り候。夜、後赤壁認ル。三更二臥。

(十月) 十日

此日、全紙カンシン認上ル。夫より梅林山水認ル。夜三更二臥。

\*カンシン(韓信)

(十月) 十一日

此日昼時、父さま帰られ候て、豊島氏来られて暫咄有て、夫より八ツ後時より鬧しく買物に行れ候。夕暮に帰られ候て、夕飯御上りにて、早々八軒屋より乗船致され候。真に何を咄すひ間もなく、扱々いそかしき事也。此夜、作図。三更二臥。



\*ひ間(暇)

(十月) 十二日

此日、高橋え行。外に來客御坐候ゆへ、早々帰り候。八ツ上り、早々近安え画絹調に行候処、絹地一寸もなく、夫より木津え帰り候処、留主中にて、唯專寺え行候へハ、此日、寺、報恩講にて、母さまも参り御坐候。玉泉寺講中、井筒や夫婦、玉泉寺後室、八尾慈願寺、皆々居られ、御酒。暫して帰り候。一宿する。

(十月) 十三日

早朝、帰り懸、泉吉え絹調に行、帰り、此日、全紙カンシン認、半切鶏認ル。夜三更迄作図。

\*カンシン(韓信)

(十月) 十四日

此日、尺巾豎物三幅対梅鶯、認にかゝる。夜二更迄作図する。

(十月) 十五日

早朝より雨中。楚山先生え留主見舞に参り候処、もはや先生、三、四日前に御帰り遊し、幸画の相談、外色々珍談。昼飯呼れ候て、木津え行、暫して帰り、早速井上氏え候処、遅刻二相成候まゝ、又々今日と申事ゆへ、早々帰り候。もはや七ツ時後也。此日、雨中、天王寺処々行路紅葉、真にぬれ清妙也。一寸此紅葉見て、

見るまゝに紅深く染ぬらん時雨のあめに濡れし紅葉は

秋雨の色とも見へぬ紅葉のこきくれないにいかて染むらむ

夜四更迄読書、和歌、作図。

\*井上氏え(行)候 \*今(ママ)日

(十月) 十六日

此日、八ツ上り、早々井上氏え行、画の稽古する。七ツ時に帰る。此時、辻氏え寄、早々帰る。夕方、入湯。一更迄隣家ニ遊ふ。三更迄作図。

(十月) 十七日

此日、梅認ル。此夕、天王寺え便する。夜、紫式部図センサク二更迄、終不知也。

\*センサク(詮索)

(十月) 十八日

此日、梅認上ル。夫より寿生認上ル。夜、手本認、三更二臥。

\*寿生(寿星)

(十月) 十九日

此日朝、高橋え哥削添してもらいに行、京大變の噂聞。此時、宇和島人来、暫咄して帰り候。

土さん加さん会津はいやよ

会津いなして

よい毛利よんてくれ。 「絵」

此日、画稽古日。一昨日、辻氏にて承り候へは、後藤先生御病気のよし聞、早速見舞に参り候はつ<sup>つ</sup>の処、きのふハ隣家仏参にて私他行出来ず、とふそ今日行度そんし候へとも、夕方迄画稽古人来候て不行得。此夜、四更二臥。

\*削添(添削) \*はつ(管) \*とふそ(どうぞ) \*そんし(存じ)

(十月) 廿日

此朝、菓子調て後藤え見舞に行候と存候処、先生黄泉致され候よし承り、驚々、残り多ノ存候。八ツ後早々、悔みに行、帰り、三幅の内、竹雀認上ル、夜四更迄。

(十月) 廿一日

此日、八ツ上りして、後藤葬送見送り致し候筈にて行懸、唯専寺知明院さまに逢、夫より同道して先生葬見送りして、帰り、暫咄し有て、知明院さま同道にて木津え帰り候。夜一宿して、(十月廿二日へ続く)

(十月) 廿二日

早朝より中之島え帰る。八ツ上りして、井上氏え行、七ツ時迄。此帰、辻氏え寄、夕方ニ帰る。夜、療治する、みつ女に。

此日昼前より大風雨、雷鳴。扱々不様意天气也。

\*不様意(不容易)

(十月) 廿三日

此日、全紙あしにかも、認にかゝる。又京師店張出、認ル。夜三更ニ臥。此日、京宮原え紙包出。堺中新えも出す。

\*あし(蘆) \*かも(鴨)

廿四日

此朝、金井子、稽古に来。八ツ後時、稽古済。夫より木津え帰り一宿する。

(十月) 廿五日

此日昼時、中之島え帰る。昼後八ツ時より上田かめ女と天神さまえ詣して、夫後、先生の墓参する筈なから、大風にて得不参、帰り候。七ツ時也。京師寺町え紙包出。夜三更迄。

(十月) 廿六日

此日、全紙竹認ル。半切雪中山水認上ル。夜三更二臥。

\*認(認(衍))ル

(十月) 廿七日

此日、尚五郎子来、小笠原印急キ物頼まれ候。八ツ後、認にかゝる。此時、土州池内精吉子来、山内包吾子よりの挨拶金一両持参致され候。いろく和歌の咄有て、久徳伝蔵子の赤壁二枚、山田子の全紙三枚分持帰られ候。此夜、三更迄右印墨書する。

(十月) 廿八日

朝、起るより早々認にかゝる。皆森子、度々せきに来られ候。漸昼時に一組認上ル。此時、由千代子使に來。夕方迄右印一組認上ル。夜三更迄。

(十月) 廿九日

此日、節季。コテくどくらし候。全紙竹認、小切物三枚認、いろく讚物する。夜三更二臥。

此日七ツ時、地震。

(十一月)

十(一)月朔日

朝より天王寺え御礼に行候処、此日、尾州公、長州出立、浪花橋通騎馬也。瓦屋橋吉井え寄、暫咄、薬到来。夫より昼時、天王寺楚山先生え。良暫咄、夫より木津え帰り、唯専寺え行、夕飯呼れ、夫より帰る筈の処、時刻晚ゆへ、またく木津にて一宿。

(十一月) 二日

早朝、中之島え帰り候。八ツ後、辻さまえ教に行、暫居り候処、もはや七ツ時、夕飯呼れて帰り候。夜、読書、認物、三更迄。此日、越前、西国え出立也。

(十一月) 三日

此日、八ツ上り。早々井上氏え行、手本認ル。紫中形袖壺丈五寸到来する。七ツ時に帰り候。夜三更迄読書、認物。

(十一月) 四日

此日、稽古日にて、終日認物なし。暮六ツ半、地震。夜三更迄読書、認物。

(十一月) 五日

此日、写し物する。夜一更二臥。読書。

(十一月) 六日

此日八ツ後、辻氏へ行、教して帰り候。もはや夕方也。夜、読書、三更迄和歌。此時、父さま御帰り遊し候。八ツ時迄いろ／＼咄して、七ツ時より臥。

(十一月) 七日

此日、父さま、朝飯して木津え帰られ候。又私、八ツ時後、木津え帰り一宿する。

(十一月) 八日

早朝、帰り候。父さま、七ツ時前に御帰り遊し、扇子三本認ル。夕方より父さま、又木津え帰られ候。此夜、二更二臥。作図、読書。

(十一月) 九日

此日八ツ後、松助方え家移り祝持参する。夫より入湯して帰り候。藤治郎子、稽古に來り候。父さま、此朝、中城え向て帰られ候。此日、辻後室さま御出にて、暫咄し有て、帰られ候。夜三更二臥。

(十一月) 十日

此日、扇面七枚認ル。夜三更二臥。

(十一月) 十一日

此日、草稿認、竜。夜三更二臥。読書、和歌。

(十一月) 十二日

此日、草稿認、浪花納涼。夜三更迄読書、和歌。

(十一月) 十三日

此日、納涼草稿認ル。夜、手本認、五更迄。

(十一月) 十四日

此日昼時、宮原先生御出にて、当地御住居の家の事仰せられ、則、隣家同宿致す様申され候まゝ、其よし申候へは、ひとく御悦にて、此時、豊島氏留主中にて御逢なく、又々後方が明日来る様仰せられ御帰り遊し候。此日、稽古日、直蔵子一人来り候。夜、腹痛ニテ早寐る。

(十一月) 十五日

此朝、宮原先生来られ候て、暫して隣家え案内いたし候。漸隣家同宿約定成、先々安心いたし候。昼後、相松え行れ候。此日、髮結、もはや日暮也。

(十一月) 十六日

此日、草稿認ル。夜三更二臥。

(十一月) 十七日

子供半日して、天王寺先生え行、暫咄して、木津え帰り候。此日、木津報恩、もはや御経相濟候後也。甚残念**到極**也。暫する中、日暮ニ相成、母さまと同道にて今宮弥三治え**姻婚**祝持参する。夫より山口氏え行候処、一寸一酒一肴出され、いろ／＼咄す。其中一更ニ相成、夫より帰り候。

十四日出の紙包、絹糸、扇子着。

\*到極(至極) \*姻婚(婚姻)

(十一月) 十八日

早朝、中之島え帰り候。八ツ上り後早々、高橋会日にて行。此日兼題、氷上水鳥、千古三安徳之私是也。夕方ニ帰り候。二更二臥。

(十一月) 十九日

此日、朝より雨中。此昼前、嘉千代子、使ニ来られ候。則、京師よりの文事告する。八ツ上りして後、雷鳴七ツ時迄、**弥巖**。夫より少々止、又夕方より大雷鳴。何分只ならぬ事と相見え候。此(日)、画稽古日、誰も来ず。一更二臥。

\*弥巖(弥巖)

(十一月) 廿日

此日、八ツ上り後、井上氏え行、手習教、画の手本認ル。夕飯呼れる。喜厚君亡父君の七回忌。まよひの糸借て帰り、夜読。和讃、御念仏諸ともに夜明し候。

(十一月) 廿一日

此日、殿様御日柄にて、子供に供養いたし、薄茶、煎茶出す。八ツ上り済、辻氏え行、教

して、風呂入りて帰り候処、夕方也。此夜、手本認、読書。三更二臥。

(十一月) 廿二日

此日、八ツ上りして、コテ／＼する中、隣家お雪さま誘に來られ候て、此夜、竹内よりの振舞にて昔咄しへ行。暫竹内に居て、日暮て聞に行、一更二帰り候。夫より読書、手本認、四更二臥。此日昼時、長学寺僧來、画頼まれ候。御開さまと蓮如さまと二服対。

\*二服(二幅)

(十一月) 廿三日

此日八ツ上りして、(以下、記述ナシ)

(十一月) 廿四日

此日、画稽古日、金井氏斗來られ候。八ツ後時より木津え帰り一宿する。

(十一月) 廿五日

此日、終日京師よりのよこれ物解。七ツ時より夕暮後に中之島え帰り候。此日、天王寺より唐紙返る。又京師より店走り狀來。此夜、読書。三更二臥。

\*よこれ(汚れ)

(十一月) 廿六日

此日、横物不二越竜にかゝる。夜三更二臥。

(十一月) 廿七日

此日、不二越竜認上ル。此日、加州軍勢、西国え行れ候。夜三更迄縫物する。

(十一月) 廿八日

此日早朝、不二讀する。八ツ上りして、画手本認ル。此日、加州軍勢、大そふ西国え行れ候。夜三更迄読書、手帖認ル。

(十一月) 廿九日

此日、画稽古日、金井子來られ候。直藏子も來られ候。此日、加州勢、少々行れ候。夜、向側え調物二行、隣家二居候処、内藤永橋子來、西国の噂あしき事聞、真に歎然として世に住甲斐なく、只涙落如雨。此時、おみつ女來。私あまり肩つかへ候まゝ療治してもらふ。夫濟て法帖一冊認。三更二臥候へとも中々不寐。

(十一月) 晦日

此日、八ツ上り済て、暫して木津え帰り、**き津**にて一宿。  
\*き津（木津）

（十二月）

十二月朔日

此日、終日雨中。コテく〜と仕事**てつたい**して、七ツ時後に中之島え帰り候。夜三更二臥。  
\*てつたい（手伝い）

（十二月） 二日

此日、短冊三枚認ル。夜一更二臥。此日朝、京師より店走り書状来。

（十二月） 三日

此日八ツ時後、井上氏え教に行、夫より辻氏え行、夕飯呼れ候て、帰り候。夜、法帖認ル。  
夜三更二臥。

（十二月） 四日

此日、稽古日、金井子斗来られ候。草稿認ル。夜三更二臥。夜一更の頃より風吹。

（十二月） 五日

此日、大風甚しく候。草稿認ル。夜、法帖認、縫物。四更二臥。

（十二月） 六日

此日、八ツ上りして、後藤より呼に来候ゆへ行候処、竜章堂より頼みの認物相談ス。暫して帰り候。夜三更二臥。

（十二月） 七日

此日早朝より試筆認させ、夫より早上り。此時、唯専寺御院主さま、お千世さまの事二付御出にて、暫して帰られ候。夫より、私、**泉寺**え調物に行、帰り懸、辻さまえ教に行、夫より井上さまえ教に行、帰り候処、八ツ時後、御千世さま御出被成候。此日、コテく〜とくらし候。夜、早寐する。

\*泉寺（泉吉）

（十二月） 八日

此日、八ツ上りして、草稿する。夜、早寐する。

(十二月) 九日

此日八ツ後、重蓋認にかゝる。

(十二月) 十日

此日八ツ後、重ふた認ル。此日、京師え寒見舞出す。

\*重ふた(重蓋)

(十二月) 十一日

此日、上田氏より誘れ候て天神芝居へ行。前、熊谷、切、小三金五郎。夜、一更前に帰り候。此日、宮原先生より書状来。

(十二月) 十二日

此日八ツ後より重蓋認上る。則、三十枚也。此日昼後、宮原先生よりねキ来。此夜、平野町迄調物二行。

(十二月) 十三日

此日、扇面一枚、小唐紙一枚認ル。短冊二枚認ル。

(十二月) 十四日

此日、八ツ上りして、お千世さまと同道にて木津え帰る。一宿。

(十二月) 十五日

早朝、楚山先生え寒気見舞に行、昼後、帰る。八ツ時よりお千世さまと同道して中之島え帰り候。則、七ツ時也。

(十二月) 十六日

此日、京師より頼まれ候白氈出。此日、極寒にて、画も不認候。夕方より五霊え調物に行。

\*白氈(白檀) \*五霊(御霊)

(十二月) 十七日

此日、草稿認、絹地鍋島納涼にかゝる。夕、新地え調物に行。

(十二月) 十八日

此日、辻氏え寒気見舞に行。此日より子供休日。



(十二月) 十九日

此日、山内さまの絹地認。

(十二月) 廿日

此日朝より木津え帰り、いろく調物して、七ツ時に中之島え帰る。此日、京師より便有。

(十二月) 廿一日

此朝、絹地認上ル。夫より辻さま地袋極彩色認にかゝる。此日日暮より木津え帰る。一宿する。

(十二月) 廿二日

此日朝、木津より中之島え帰り候。地袋認ル。

(十二月) 廿三日

此日、地袋認ル。此日、京師文庫出。此日朝、京行文認候節、うき年となけきく送る日も残りすくなくはや也にけり

(十二月) 廿四日

此日、(以下、記述ナシ)

(十二月) 廿五日

六ツ起して、天神宮え詣して帰り候。朝、地袋認上ル。夫より扇面三枚認ル。

(十二月) 廿六日

此日、内掃事する。勝間長源寺子来、暫咄して帰られ候。又辻御後室さま、暮の御礼に出被成候。此夜、五霊え調物に行。

此日、長谷川善兵衛来り候。

\*掃事(掃除) \*五霊(御霊)

(十二月) 廿七日

此日、京師より書状来。此朝より高橋え御礼二行、夫より後藤え行、暫して梶木津え行、薄茶二服吸て、夫より細矢え行、薄茶二服呼れ候て、井上氏え行、早々帰る。短冊三枚認。夕方より木津え帰り候処、母さま御留主中にて、唯専寺え行候へは、唯専寺に居られ候て、一更ニ迄遊ぶ。夫より帰、臥。

(十二月) 廿八日

昼時に中之島え帰り候。此日、京師より法帖来り候。此日、長谷川来り候。夜、画認、四更迄。

(十二月) 廿九日

此日、諸払、掃事相済、歳暮の礼に辻氏え行。夕暮よりお千世子と同道にて五霊さまえ調物二行、夫より帰り、暫して臥。此日、朔日三枚認ル。

\*掃事(掃除) \*五霊さま(御霊さま)